

# 住宅密集地における高齢者の居場所づくりについて

M16HB004 龍田 幸祐

## ■困っている人（年齢・性別・家族・生活・思いとサポートニーズ）

### ①近所を毎日うろうろしているおばあさん

- ・年齢：不詳
- ・性別：女性
- ・家族：おそらく単身（配偶者などを近所の方が目撃したことがない。）
- ・生活の様子：

平日土日祝日に昼夜問わず、近所を徘徊している。

何度か心配した近隣住民が警察に通報している。

意識ははっきりとしている。

近所の交番で聞き込みをしたところ、徘徊に目的はなく、本人はただ歩いているだけであるとのこと。

- ・思いとサポートニーズ：

本人との意思疎通ははかれていないが、周囲に住宅しかなく、友人も少ないため一日をどのように過ごせばよいか、わからないのではないか。と警察談。

### ②近所の市営住宅に住むおじいさん

- ・年齢：不詳（退職して数年ほど）
- ・性別：男性
- ・家族：配偶者有り
- ・生活の様子：

以前は、建設会社に勤めていたが、退職して時間の使い方がわからない。

現在は、気が向いたときに近所の酒屋の友人と話すことに時間を費やしている。

地域の行事には興味があるが、運営には関わらず、当日に顔を出す程度。

- ・思いとサポートニーズ：

趣味がなく、近所の商店街の囲碁クラブにも興味がない。喫茶店などもなく、地域の行事もいつもあるわけではないため、とにかく目的なく、立ち寄れる場がほしい。パチンコなどにも興味がない。

## ■思いとサポートニーズを支えるサービス

前述内容を踏まえて。両者とも生活の中で「何をすればいいのか」がわからず、また参加する仲間が周囲にいないことが問題点としてあげられる。しかし、彼ら彼女らのように所属するコミュニティがない人もいる一方で、地域の老人憩いの家など、民生委員として積極的に活動している高齢者もいる。

民生委員に参加している高齢者は、毎月何かしらの地域行事の話や準備などで忙しくしている。その行事には、民生委員だけの慰安旅行もあれば、地域住民を対象にしたカレーの炊き出し、地域のお祭りなどもある。

また、民生委員に参加していない高齢者でも囲碁などの趣味がある人や、近所で友達が多い人は、商店街の囲碁クラブへ行ったり、友人宅を尋ねたり、少し離れた喫茶店でお茶をしている。

その一方で、「何をすればいいのか」わからない高齢者はというと、「何をすればいいのか」わからないまま、近所を散歩したり、家でテレビを見る他もない。ある。

以降、3つのグループに分類し、考察する。

(G1：民生委員に参加している人、G2：民生委員は不参加だが何かして過ごしている人、G3：「何をすればいいのか」わからない人)

### \*居場所について

一言に居場所といつても、その有り様はさまざまである。また、近年このように「居場所づくり」を推進する動きは多く、地域サロンなどがよく挙げられる。しかし、いくら地域サロンを作っても、集まるのはG1やG2層が多い。

また、高齢者の中でも特に男性の高齢者は退職前まで会社勤めで、高度経済成長期を生きた人たちが多い。これまで、地域とのつながりがなかった彼らに、ある程度仕上がった場所にとけ込むというのは困難な場合が多い。そのような人たちは「何をすればいいのか」わからない状態になりやすい。大切なのは、「目的に合った場所」なのではなく、「目的が見つかる場所」なのであると考える。

## ■住環境や施設の計画

今回の提案は、G3 の高齢者を対象に計画するものとする。

先述の内容から、計画の要点としては、以下である。

①無目的に立ち寄れる。

②地域とのつながりが持てる。 以上を踏まえ、具体的な内容に触れていく。

まず、①無目的に立ち寄れる。について。

G3 の高齢者は目的がなく、日頃どのようにして過ごせばよいかわからない。

そのため、何気なく歩いていて、ふらっと立ち寄れるものとして、周辺にあるものを活かし、少年サッカークラブの練習風景が見れる場所に長居できるよう喫茶スペースを設ける。特に近くで見たい場合も考慮し、テラス席も設置する。

次に、②地域とのつながりが持てる。について。

つながりを持つ、となったときにやはり周辺住民との距離の方が詰めやすい。

また、市営住宅が多くあることから住宅内での取り組みが望ましい。また、距離を縮めるためには、周囲の人に興味を持つてもらうことや共通の話題を持つことが必要になってくるため、活動そのものを提案する。以上を踏まえて、住宅内での配食サービスへの参加を提案する。これはワタミ宅食サービスなどのような訪問型のサービスで、自炊ができるかできないかという点ではなく、人と会話すること、誰かのために行動することに重きを置いている。また、そのお弁当もいくつかの市営住宅の住民から募って用意することで、従業員同士のつながりも見込める。

## ■イメージ図

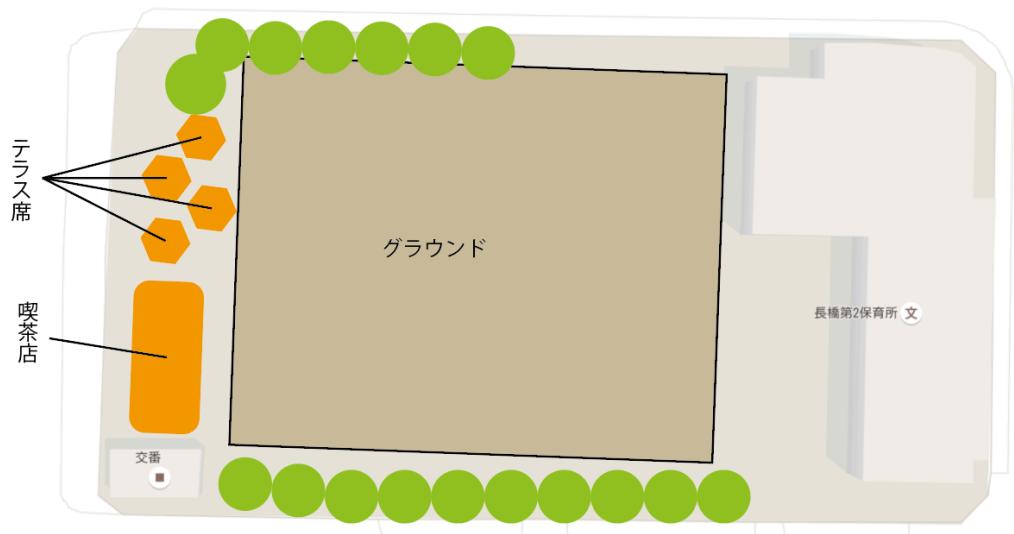


図1：サッカークラブを望める喫茶店とそのテラス席

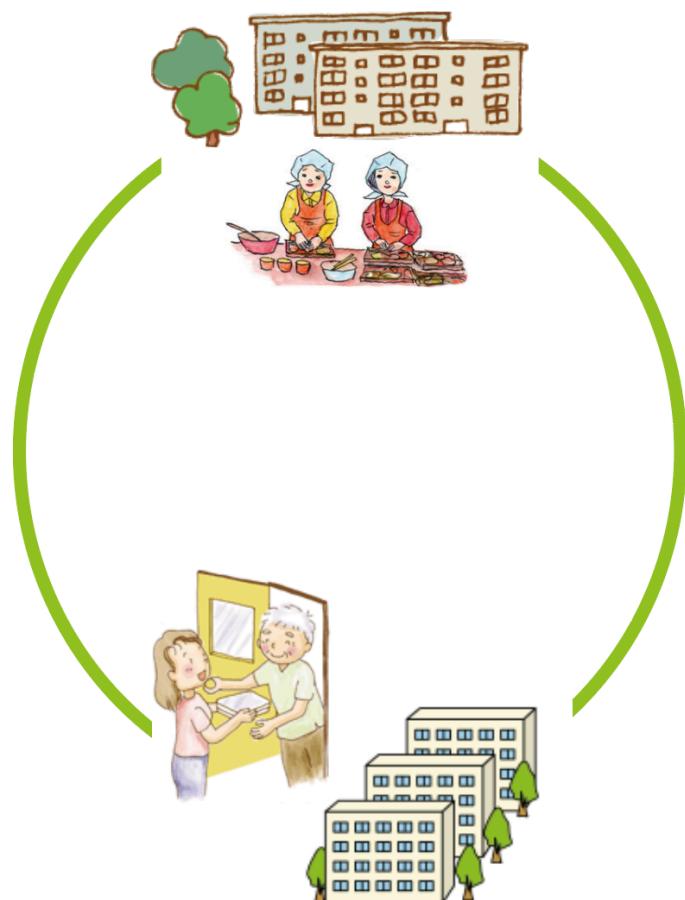


図2：配食サービスによる地域への貢献イメージ

## ■参考 HP

- ・「高齢者・若者の居場所はあるか～地域でつながりをもって生きる」

[http://blog.livedoor.jp/chiikirouso\\_yokohama/archives/3505392.html](http://blog.livedoor.jp/chiikirouso_yokohama/archives/3505392.html)

- ・高齢者の居場所作り事業に関する検討 — 網走市高齢者ふれあいの家をもとに

<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/>

- ・子どもから高齢者まで？ 「地域の居場所づくり」の盲点

<http://osada.works/ibasyo/>